Annual Report

事業報告書

2023

来島会
KURUSHIMA-KAI

社会福祉法人来島会

【お詫びと訂正】
「アニュアルレポート事業報告書 2023」に掲載しました次の記事について、誤りがありました。

●15 ページ「社会福祉法人来島会　事業所マップ」-「事業所一覧」

「放課後等デイサービス・保育所等訪問支援　らびっつ」および
「コミュニティビレッジきとなる」の所在地

・（正）今治市高橋ふれあいの丘 1 番地 3
・（誤）今治市高橋ふれあいの丘 **3-1**

●15 ページ「社会福祉法人来島会　事業所マップ」-「法人概要　資格保有者数」

・（正）公認心理師
・（誤）公認心理**士**

ご迷惑をおかけしましたことをお詫びするとともに、ここに訂正させていただきます。

ごあいさつ

私たち来島会は「すべての人が「障害」を感じることなく、自分の意思で質高く暮らすことのできる地域社会の実現」を目指し、地域福祉の向上に邁進しております。

2019年度より進めてまいりました中期経営計画期間も2023年度をもって終了し、現在は新たな中期経営計画2024/4 - 2030/3へと歩みを進めております。前中期経営計画期間での具体的取り組みは本誌4〜5ページで報告しておりますが、改めてこの期間において、来島会の向かうべき方向を見定めることができました。それは、地域を多様な人にとって豊かなくらしができる社会にみんなで変えていく、そのための働きかけを積極的に行っていくという役割への変革です。

私が福祉という世界に心動かされたのは14年前。当時、来島会に入職したばかりだった私は様々な研修や書籍で福祉について学んでいました。その中で語られる言葉、概念にとても感動を覚えたものです。福祉を学ぶ前は直接的な支援技術や介護技術を学ぶのだろうと思っていたなか、実際に学んでみると、その一つひとつの考え方が人として当たり前、けれど、とても大切なことだったのです。例えば「ストレングスモデル」。支援を必要とする人を何かが欠けている弱者としてみるのではなく、その人の人生を取り戻すために、その人の夢や希望に重きを置いて、その人のもつ強みと地域環境のもつ強みを活かし、新たな生活設計や具体化を図ることに、福祉が貢献するという考え方。これら学んだ福祉の考え方、すべてが当たり前でとても大切なものだと思えました。

一方で、多くの福祉現場においては、来島会もその例外ではありませんが、支援を必要とする方のことを、ご本人やご家族の発言、社会の状況などから、無自覚のうちに、サービスを受ける受動的な存在として扱ってしまっている実態もあります。

私は、当たり前のことが当たり前に実現される社会に向けて、取り組みを進めてきました。

私たちの目指す「すべての人が「障害」を感じることなく、自分の意思で質高く暮らすことのできる地域社会の実現」は、私たち来島会だけで実現できるものではありません。一緒にこの実現を目指す皆様はじめ、このご支援、ご共感の輪が広がっていくことによって実現できるものだと確信をしています。私たち来島会はこれからも多くのチャレンジをとおして、インクルーシブな地域社会を実現していきます。

今後とも引き続きのご支援、ご協力のほど、心よりお願い申し上げます。

2024年9月1日
社会福祉法人来島会
理事長 越智 清仁

ビジョン

すべての人が「障害」を感じることなく
自分の意思で質高く暮らすことのできる地域社会の実現

Annual Report 2023

CONTENTS

ごあいさつ …… 02

2019〜2023年度
中期経営計画を振り返って …… 04-05

2023年度
くるしま事業Topics …… 06-07

インタビュー ～想いを受け取った声、届けた声～ …… 08

決算報告 …… 09

数字で見る来島会 …… 10-11

中期経営計画 2024/4-2030/3 …… 12-13

事業所一覧 …… 14-15

2019～2023年度

中期経営計画を振り返って

中期経営計画に基づき、2019年度から2023年度の
5年間で行った来島会の事業をピックアップしました。

この中期経営計画では、以下の3つを大きなテーマとして事業を運営、新規事業にも挑戦しました。

❶来島会スタンダードの確立　❸外部への発信の強化
❷人材マネジメントの仕組み化　●新規事業

2019

●先進事例の視察
先進的な障がい者雇用を行う、日本理化学工業様への視察

●業務マニュアルの整備
高齢分野の事業所で統一した介助方法や業務手順をまとめた「ほほえみ介助マニュアル」を作成・発行

●支援好事例を収集
各事業所の日々の活動のなかで生み出されたご利用者様への支援エピソードを集めた「よい支援事例」を収集

2020

●人材の多様性
ミャンマーからの技能実習生受入れを高齢分野の事業所で開始

●重症心身障害児者受入PJ
重症心身障害児者の受入れに向けた準備の開始

2021

●人材採用活動の専門化
新卒採用のオンラインでの説明会・面接を実施開始

●障がい者アートの普及活動
今治市民会館での障がい者アートのミニ展覧会を開催

●広報活動の強化
広報誌リニューアルと配布先の開拓・拡大

●重症心身障害児者受入PJ
今治福祉園で重症心身障害児者の受入れを開始

2022

●ほほえみ介助マニュアルに沿った業務習得チェックの運用実施

●報酬評価制度の再構築
「新報酬評価制度」の運用を開始

●教育プログラムの確立
新入職員入職時集合研修の実施

●桜井プロジェクトの活動
桜井地区伝統のわら舟つくりへの協力

地元住民を交えたビーチクリーン活動の実施

●里山スタジアム内施設PJ
「里山スタジアム」内複合福祉施設開設準備室の立ち上げ

●里山スタジアム内施設PJ
「コミュニティビレッジきとなる」開設へ向けたクラウドファンディングを実施

2023

●業務マニュアルの整備
入所施設マニュアル会議を立ち上げ、入所施設全体でのマニュアルの整備と改定を継続中

●ビジョン・ミッションの浸透
「来島会みらい会議」の開催と「ワーキングチーム」を結成・活動

●障がい者アートの普及活動
大三島美術館でのアール・ブリュット展への協力

●地元企業との連携
- のりの養殖を行う合同会社シーベジタブル今治工場の運営を受託
- 養蚕業のユナイテッドシルク株式会社のせとうちシルクファクトリーの開設協力と業務の請負

●寄付募集活動の取り組み
来島会を支援いただくために積極的な寄付金募集活動を開始

●里山スタジアム内施設PJ

「コミュニティビレッジきとなる」開設

くるしま事業 Topics

来島会が2023年度に行いました
インクルーシブな地域社会に向けた取り組みをご紹介します。

ご利用者様のコミュニティへの参加

「コミュニティビレッジきとなる」開設!
地域交流やインクルーシブ社会実現の拠点に。

4月、今治里山スタジアム(現、アシックス里山スタジアム)敷地内に、複合福祉施設「コミュニティビレッジきとなる」を開設しました。

ここでは、放課後等デイサービス「らびっつ」、自立訓練(生活訓練)・就労移行支援事業所「ジョブサポートセンターここすた」を運営。また、障害福祉サービスのみならず、Jリーグクラブ FC今治が運営するカフェ「里山サロン」も設け、地域の方々が集うことのできる場所として事業を行っています。

「コミュニティビレッジきとなる」外観。

らびっつ、ここすたで活動するご利用者様。

「きとなる」から
次々と生まれるつながり。

「きとなる」が様々な事業所、団体、機関等と連携することで、障がいのある方が様々なつながりを持てるよう取り組みました。障がいの有無なく誰もが活躍できるような社会に向けての第一歩を、ここで担っています。

ガールスカウト愛媛県第6団の皆様にご協力いただき開催したデイキャンプ。

「きとなる」での経験が社会で活躍する未来へ。

「ジョブサポートセンターここすた」の就労移行支援サービスで、多くのご利用者様の就職を実現できました!

高校を卒業して就職したものの、人間関係などが原因で仕事が長続きしなかったIさん。広汎性発達障害の診断を受け、就労移行支援サービスを利用することになりました。職場で円滑な人間関係を築くための適切な言葉遣いを身につけていただこうと、面談などでご自身の発言等を振り返る場を設けました。ご本人と就職に向けた様々な条件も整理していき、食品加工会社へ応募することに。そこでの実習・面接を経て、めでたく就職に至りました!

自立訓練(生活訓練)サービスで生活リズムを整え、情緒面を安定させることを重視したHさん。利用期間が終了する頃、ご本人との面談で「就職」を強く希望されたため、就労移行支援サービスに切り替え、就職をめざすことに。就きたい職種を整理していった結果、子どもに関わる仕事に興味があり、絵を描くこと、歌うこと、踊ることが得意なことがわかりました。その後、放課後等デイサービスでの実習を経て、見事採用となりました!

ほかにも・・・
Jリーグクラブとして地域に根差した様々な社会連携活動を表彰する「2024Jリーグシャレン!アウォーズ」で、FC 今治様と来島会との活動が「ソーシャルチャレンジャー賞」を受賞しました!!

来島会ではたらく職員の教育

「ともに社会をよくする人を増やすには?」
来島会の仲間探しプロジェクト。

有志の職員が集まり「来島会の仲間探しプロジェクト」を立ち上げ、一年間にわたり活動しました。「来島会の仲間とは何か」「これから仲間となる人や組織はどのようなものか」についてディスカッションをしたり、仲間を増やす施策を実行したりしながら、来島会の将来に向け必要な提言を行いました。

7月29日には「来島会の認知度キャンペーン」と題し、来島夏祭りとあわせて「コミュニティビレッジきとなる」でイベントを企画実施。ボランティアとして参加した学生の方々とともに、社会問題を解決するためにここで行っている取り組みを発信しました。

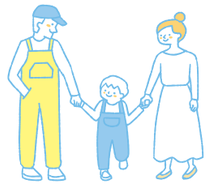
来島会が行った地域へのはたらきかけ

発達に困りごとのある子どもたちの
就学期に向けた不安を払拭。(2023年5月20日開催)

発達にでこぼこがある子どもたちにとって、どのような教育環境が最適なのか、どのようなサポートを受けながら学校生活を送ることができるのか等、小学校入学へ向け見通しを持っていただくためのセミナーを開催しました。

今治市教育委員会のご協力のもと、特別支援学校と特別支援学級、通級指導教室の違いや特徴のほか、「今治市教育相談」の内容や、それを経てお子様に適していると思われる就学先を通知される流れなどを知っていただきました。

また、すでに就学期のお子様を育てる先輩保護者の方との座談会も行い、就学先を決めるまでの経緯や参加者の悩みごとを共有し、保護者同士のつながりを持つきっかけも作ることができました。



南国市で初の紙相撲大会!
「どんどこ!巨大紙相撲大会」。(2024年3月3日開催)

障害者支援施設南海学園を「地域の様々な方々との交流が生まれる開かれた場所」へ――。

等身大の段ボール製力士同士が戦う紙相撲大会「どんどこ!巨大紙相撲大会 南国場所」を、初めて南海学園で開催し、南国市内外から200名以上方々に参加いただきました。

行司の「はっけよい、のこった!」の声とともに、参加者は木製の土俵を一斉に叩いてお互いの力士を攻め立てていきました。毎試合熱戦が繰り広げられ、最初は試合を見守っていた観客の皆様も、次第に一緒に土俵を叩いて参加するなど、会場全体が一体となりイベントは大いに盛り上がりました。

開催に先立って行ったワークショップで制作した自慢の力士を交差させ、試合を行いました。

ほかにも、計16回の講演会やワークショップを地域の方々に向け開催いたしました。

6/10 「自分でわかる考え方のクセ。クセがわかるとラクになる!」

8/26 「就学期に身につけておきたいスキル」

11/25 「自家製消しゴムはんこでオンリーワンエコバッグを作ろう」

2/17 「お布団までをスムーズに!寝るお仕度ワークショップ」

Interview

～想いを受け取った声、届けた声～

息子が落ち着ける場所を見つけられ、安心でいっぱいです。

障がいのある方を子どもに持つ親御様
〇様ご夫妻

〇様ご夫妻。

一部を改修し新設した、今治福祉園の新しい居室空間で過ごす息子さん(奥)。

知的障がいと視覚障がいのある息子は、精神状態が不安定になりやすく、ときには他者を傷つけてしまうこともあります。息子には食事、入浴、排せつなど日常生活への介助が必要不可欠。ここ数年で私たちも高齢となり、介助をしようにも思うように体が動かなくなってきていました。この状況が息子にとっても大きなストレスとなっていて、これ以上の共同生活は難しいと、ずっと息子の入所先を探していました。

そんななか、今治福祉園の一部を改修し、新しい部屋ができたことで空きがでた、という話があって。今年4月、やっと入所することができたんです。

息子が今治福祉園で生活を始めて数か月。職員の方と施設の中をウォーキングしたり、ときには外へ散歩に出かけたりしていると聞いています。健康面のサポートもしっかりしていただいているようで、この前、様子を見ましたが、元気そうに過ごしていました。

「息子にとって豊かな生活ができている」という安心感があることで、私たちの生活も充実したものになっています。ずっと息子にかかりきりだったので、体操教室に通ったり、家の庭の手入れをしたりして、穏やかな日常を送りたいです。

困っている家族が幸せになれるよう地域を支えてほしい。

株式会社大旺 代表取締役社長
越智 雅一様

株式会社大旺
1962年創業。土木・建築工事会社として、初代社長の越智伊平様が掲げた「さしてもらう、してもらう」という請負訓を守り、自治体や関係者との絆を深めながら、三代にわたって地域に根差した事業を展開。越智雅一様は2008年より三代目社長として、いち早くICT化を現場目線で推進。着実に実績を積み上げている。

私の知人で知的障がいのある方を子どもに持つ人がいるんです。その方、50歳を機に一度仕事を辞められたんですね。それまで奥様が一人でその障がいのあるお子さんをサポートしてきたんですが、精神的に参ってしまって。奥様とお子さんのサポートをするために仕事を辞められたんです。今では皆さん幸せそうにされているのですが、当時は大変そうで。

こういった困っている家族が一人でも多く幸せになれるように、来島会にはこれからもより一層、地域をサポートしていってほしいと思っています。

私たちは土木建築工事会社ですので、もともと来島会とは建物修繕などでお取引はあったのですが、深く関係を築いたきっかけは平成25年の今治福祉園でのエレベーター設置工事です。実際に作業をしているなかで、今治福祉園に暮らす方の一人ひとりの表情を見ているととても幸せそうで、アットホームな居場所なんだなと感じました。私たちの作業は危険な場面も多いのですが、そんなときに幸せそうな顔を見るととても癒されたのを今でも思い出します。

以来、障がいのある方が社会で生活しやすくなるように私たちのできることで社会貢献ができたらとの思いで、来島会を応援しています。

決算報告

資金収支計算書

(自) 2023年4月1日 (至) 2024年3月31日 (単位：円)

項目		金額
事業活動による収支	収入	1,975,646,373
	うち経常経費寄附金収入	6,440,470
	支出	1,838,507,057
	収支差額	137,139,316
施設整備による収支	収入	44,614,807
	うち施設整備等寄附金収入	1,165,340
	支出	122,507,774
	収支差額	▲ 77,892,967
その他の活動による収支	収入	3,157,274
	支出	46,837,884
	収支差額	▲ 43,680,610
当期資金収支差額合計		15,565,739
前期末支払資金残高		557,840,912
当期末支払資金残高		573,406,651

事業活動収支計算書

(自) 2023年4月1日 (至) 2024年3月31日 (単位：円)

項目		金額
サービス活動増減の部	収益	1,970,483,038
	うち経常経費寄附金収益	6,440,470
	費用	1,961,788,501
	増減差額	8,694,537
サービス活動外増減の部	収益	5,193,586
	費用	6,978,224
	増減差額	▲ 1,784,638
経常増減差額		6,909,899
特別増減の部	収益	3,155,116
	うち施設整備等寄附金収入	1,165,340
	費用	1,930,189
	増減差額	1,224,927
税引前当期活動増減差額		8,134,826
法人税、住民税及び事業税		0
法人税調整額		0
当期活動増減差額		8,134,826
前期繰越活動増減差額		1,176,523,719
当期末繰越活動増減差額		1,184,658,545
基本金取崩額		0
その他の積立金取崩額		0
その他の積立金積立額		32,651,025
次期繰越活動収支差額		1,152,007,520

貸借対照表

2024年3月31日現在 (単位：円)

項目		金額
資産の部	流動資産	686,364,832
	固定資産	3,145,876,572
	基本財産	2,096,818,683
	その他固定資産	1,049,057,889
資産の部合計		3,832,241,404
負債の部	流動負債	353,021,116
	固定負債	907,130,136
	合計	1,260,151,252
純資産の部	基本金	132,224,681
	国庫補助金等特別積立金	801,998,734
	その他積立金	485,859,217
	次期繰越活動増減差額	1,152,007,520
	合計	2,572,090,152
負債および純資産の部合計		3,832,241,404

ご寄付の内訳

2023年度は583件、7,565,810円のご寄付をいただきました。皆様からのご支援に感謝申し上げます。

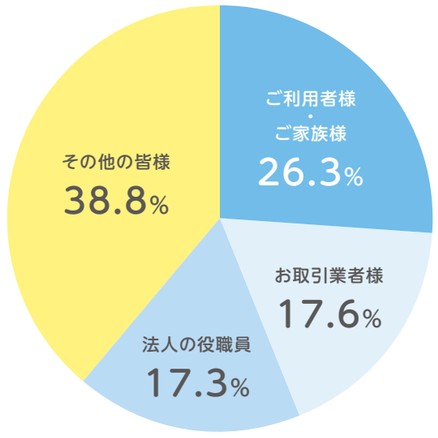
ご寄付いただいた先

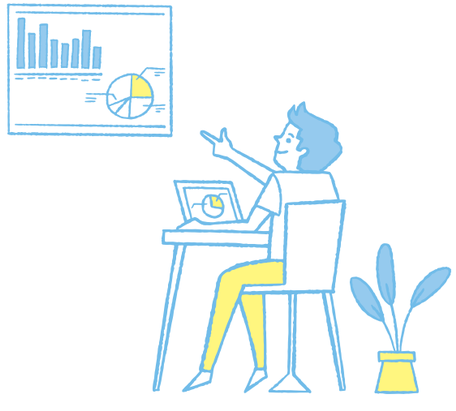
来島会の活動全般へのご寄付 ……213件
特定の施設へのご寄付 …… 90件
クラウドファンディングでのご寄付 ……280件

ご寄付の種類

個人からのご寄付(単発) ……463件
個人からのご寄付(マンスリー) …… 84件
法人・団体からのご寄付 …… 36件

ご寄付いただいた方の来島会との関係性





数字で見る来島会

私たちは、違いによる区別をなくし、お互いに尊重し認め合えるコミュニティを実現するべく様々な取り組みをしています。
2023年度(2023年4月1日～2024年3月31日)に来島会で行いました取り組みを象徴する数字を集めました。

地域の皆様へ向けた講演会、ワークショップなどのイベント

16回開催

505人参加

困りごと、悩みごとを抱える方へ解決の糸口を見つけていただいたり、普段の生活に取り入れやすいヒントを得ていただいたりしました。
前年度よりもさらに多くの方へ向け開催することができました。

ボランティアとして関わっていただいた方

251人

「福祉の仕事を体験してみたい」という学生の方や、「イベントのお手伝いがしたい」という方まで幅広い年齢層の方に関わっていただけました。

事業をご利用いただいた方

前年度
755人
▼
986人
(2023年4月1日～2024年3月31日)

ステップアップされたご利用者様

一般企業等へ就職された方 4人

福祉サービスのなかで事業所をステップアップされたご利用者様 6人

ご自身らしく豊かに暮らしていただけるよう、ご利用者様の次なるステップアップに向け支援することができました。

来島会と協業し地域をよりよくしていただいた企業

20社

来島会へ業務を発注いただき、障がいのある方々がより地域で豊かに暮らしていけるようご協力いただきました。

新たに来島会のことを知っていただいた方

1,120人

視察や見学、事業所開放イベントなどをとおして、来島会の事業や取り組みを多くの方に知っていただきました。

実習の受入れ人数・回数

21人 77回

実習をとおし、福祉の道を志す学生の皆様の選択肢を切り開くことができました。

ご利用者様に新しい体験をしていただいた数

事業所で初めて行った活動やイベントなどで、ご利用者様に新たな体験をたくさんしていただきました。

130回

来島会に新たに入職した職員

44人

(うち、2023年度新規学卒者7人)

来島会ではたらく職員(2024年3月末時点)

370人

(嘱託職員・パート含む)

中期経営計画 2024/4～2030/3

私たちの考える「福祉」のあり方

私たち来島会は、今まさに「福祉」という言葉の意義づけが問われていると考えています。

私たち自身がこれまで制度事業（福祉サービス）を展開することを通して、直接的な介護や支援のサービスを提供することが「福祉」であると限定的に理解をしてきました。

これを反省し、私たちは今**「福祉」という分野や業界、サービスがあるのではなく、**あらゆる分野、業界のなかに、**多様な人がお互いを尊重し生活することが豊かであるという考え方を実現しようとする働きかけ**が「福祉」であると確信しています。

来島会が2030年にありたい姿

社会のつながりをつくるコミュニティソーシャルワーカー組織

― 地域を多様な人にとって豊かなくらしができる社会に変える働きかけを行う ―

これまでは

直接的な介護や支援をする

“ケアワーク”

これからは

社会のつながりをつくる

“ソーシャルワーク”

4つの重要な方向性

サービス受益者の成長

すべての事業が、利用いただく方の地域社会での豊かな生活を目的とするご利用者様自身の成長を実現

届く情報発信

来島会の発信について、情報を必要とする社会生活に困難を抱える方に適切に到達することを実現

地域での相談体制

地域の様々な人や団体と連携し、地域全体で様々な相談が受けられる体制を実現

取り組みの統合

地域への働きかけが来島会全体で同じ理念のもと行われるよう取り組みの統合、共有を実現

これを支える3つの基盤改革

財政健全性の確保

- 収支管理体制の強化
- 支援性資金の獲得
- 計画的建物修繕

地域連携の強化

- 福祉機関との連携
- 地元企業との連携
- ボランティア受入の拡大

職員のキャリア開発

- コミュニティソーシャルワーカーへの成長機会
- マネジメントスキル教育

2024年度の取り組み

2024年度経営テーマ

言葉の概念をとらえなおす

私たちは従来、安全、安心が大切であるとか、直接の支援、介助を意味する言葉として福祉と表現するなど、非常に狭い範囲で物事をとらえ、かつそれに囚われてしまっていたことを反省しています。

そこで2024年度は、私たち来島会における様々な言葉の概念を改めてとらえなおし、これらを再定義していくことに重点をおきます。

2024年度の取り組み

アートの取り組み強化

今まで来島会がアートとしてとらえてきた絵画、造形作品という枠組みにとらわれず、福祉そのものがアートであるとの考えのもと、支援力の強化や、社会資源の開発、連携先の増加などを目指して、体験的なアートの取組みを行います。

来島会スタンダードの言語化と浸透

来島会が目指すものや日々の支援での価値観などを共有のものとして職員全体がもてるよう可視化した資料を作成するとともに、それを使用した研修を実施します。

障がいのある方の親なきあとの豊かなくらしセミナーの通年開催

障がいのある方が、日頃身の回りの世話をしている親御様が亡くなられた後も、豊かな地域生活をおくっていくために、どんな準備が必要か、じっくり学べるセミナーを今治市社会福祉協議会のご協力のもと一年間をかけて開催します。

来島会ブランドの再定義

来島会がどんな想いで、どんな活動に取り組んでいるのか、情報を受け取る皆様に伝わりやすく、また来島会の各事業所などからの発信も統一感をもって発信ができるよう来島会ブランドを再定義します。

収支管理体制の強化

各事業所の責任者による収支状況ならびに改善計画の報告、進捗管理のための会議を毎月開催し、事業業績の管理体制を強化します。これにより事業目的に効果的かつ持続可能な経営を継続します。

マネジメント教育の確立

事業目的にそった事業運営、職員の育成、収支管理の実現のために事業所責任者のマネジメントスキルを強化できるようマネジメントスキル教育の仕組みを確立します。

事業所ごとでの取り組み

- 入所施設からグループホーム、グループホームから一人暮らし等地域生活への移行の推進
- 重度障がいの方への専門的支援の強化
- 施設ご利用者様への新たな体験機会の創出
- 自己有用感を獲得できる社会参加機会の創出
- 就労支援事業ご利用者様の賃金及び工賃の向上
- 就労支援事業でのステップアップや一般企業等への就職を実現するステップアップ支援の強化
- 地域の子育て中のご家族への支援や交流機会の実現
- 学校等関係機関と連携した不登校児への支援の実施

MAP

社会福祉法人来島会
事業所マップ

愛媛県今治市の事業所

障害福祉サービス

- 障害者支援施設 今治福祉園 …… 今治市宮ヶ崎甲170番地
- 共同生活援助事業所 カラコリーナ …… 今治市唐子台東三丁目7番地2 他
- 就労継続支援B型事業所 今治ワークス …… 今治市宮ヶ崎甲166番地
- エンゼル21（今治ワークス従たる事業所） …… 今治市波方町樋口甲109番1号
- 多機能型事業所 ふきあげワークス …… 今治市恵美須町三丁目1番地16
- 就労継続支援A型事業所 ステップ …… 今治市玉川町別所甲32番地1
- 就労継続支援B型事業所 麦の穂 …… 今治市衣干二丁目144番地3
- 生活介護事業所 ふらっぷ …… 今治市登畑甲345番地1
- 居宅介護・重度訪問介護 行動援護・移動支援 ホームヘルプ事業部 凜 …… 今治市北宝来町二丁目2番地12
- 地域活動支援センター こぱん …… 今治市北宝来町二丁目2番地12
- 相談支援事業所 相談支援センター アゼリア …… 今治市北宝来町二丁目2番地12
- 多機能型事業所 ジョブサポートセンター ここすた …… 今治市高橋ふれあいの丘1番地3

児童福祉サービス

- 児童発達支援センター 今治市子育て応援ステーション ばんび …… 今治市宮ヶ崎甲690番地1
- 放課後等デイサービス なかよし学童くらぶ …… 今治市北宝来町二丁目2番地12
- 放課後等デイサービス 保育所等訪問支援 らびっつ …… 今治市高橋ふれあいの丘3-1

高齢福祉サービス

- 地域密着型特別養護老人ホーム かのこ …… 今治市宮ヶ崎甲700番地1
- 地域密着型特別養護老人ホーム ほのか …… 今治市高部甲535番地1

その他公益事業

- 今治圏域障害者就業・生活支援センター あみ …… 今治市北宝来町二丁目2番地12
- 今治市障がい者文化体育施設 サン・アビリティーズ今治 …… 今治市喜田村二丁目1番10号
- 無料職業紹介所 わーすまいる …… 今治市北宝来町二丁目2番地12

その他

- 法人本部事務局 …… 今治市北宝来町二丁目2番地12
- コミュニティビレッジ きとなる …… 今治市高橋ふれあいの丘3-1
- 来島ふれあい だんだんファーム …… 今治市高市甲161番地3
- 古民家交流スペース DANDAN BASE …… 今治市高市甲161番地3

高知県南国市の事業所

障害福祉サービス

- 障害者支援施設 南海学園 …… 南国市大そね乙2288番地
- 相談支援事業所 相談支援センター びぃーず …… 南国市大そね乙2288番地
- 共同生活援助事業所 かるむ …… 南国市大そね乙2288番地

児童福祉サービス

- 福祉型障害児入所施設 南海学園 …… 南国市大そね乙2288番地
- 児童発達支援センター やいろ …… 南国市大そね乙2288番地

その他

- 避難スペース ばすけっと …… 南国市大そね乙2288番地

法人概要（2024年7月31日現在）

名称
社会福祉法人 来島会

所在地
〒794-0028
愛媛県今治市北宝来町二丁目2番地12

事業内容
第一種・第二種社会福祉事業（障害者福祉サービス、児童福祉サービス、介護福祉サービス）その他公益事業

理事

理事長	越智 清仁
業務執行理事	越智 人史
理事	住村 亮次
理事	石丸 元治
理事	杉山 裕二
理事	三幡 大輔
監事	浮穴 和子
監事	長野 千津美
評議員	白石 久美子
評議員	秋友 英稔
評議員	青野 鬼一郎
評議員	近藤 稔
評議員	越智 容子
評議員	藤髙 亮
評議員	秋山 佳子

資格保有者数

介護福祉士	106人
社会福祉士	34人
精神保健福祉士	12人
保育士	52人
看護師	14人
准看護師	8人
理学療法士	1人
作業療法士	2人
言語聴覚士	1人
公認心理士	3人
臨床心理士	1人

ご寄付のお願い

皆様のお力と関わりで、誰もが生きやすい社会になります。

皆様の善意によるご寄付は、さらなる福祉サービスの発展・充実や、多様性を受容し、
一人ひとりの個性を活かすことのできる社会に変えていくため、
私たちが取り組む様々な事業に活かしていきたいと考えています。
私たち来島会のビジョン・ミッションや、事業に共感していただける
個人、法人、団体の皆様からのご支援・ご協力を心よりお願い申し上げます。

ご寄付の方法

webサイトからクレジットカード、コンビニ払い、銀行振込、ペイジーでご寄付いただけます。
1回の単発寄付だけでなく、毎月定額をご寄付いただくマンスリーサポーター「てとてと」への
ご参加をお待ちしております。

※マンスリーサポーター「てとてと」は、毎月300円から始めていただくことができます。

◀ https://www.kurushimakai.jp/donate.html

来島会　寄付

ご寄付に関するお問い合わせにつきましては、下記の法人本部事務局までお願いいたします。

いまばり バリィさん®

バリィさんも応援しとるけん

社会福祉法人 来島会 KURUSHIMA-KAI

法人本部事務局
〒794-0028 愛媛県今治市北宝来町二丁目2番地12
チャレンジドサポートセンター3階
TEL:0898-32-0700　FAX:0898-32-0701
Mail:contact@kurushimakai.or.jp
https://www.kurushimakai.jp/ ▶

印刷:第一印刷株式会社